

# 「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と 学校規模の適正化検討委員会ニュース

発行日：平成 24 年 12 月 21 日

発行：検討委員会事務局

第 2 回検討委員会 開催

☆平成 24 年 11 月 29 日（木）午後 6 時半から  
大正中学校 ミーティングルーム

## 1 はじめに

◇前回の第 1 回検討委員会では、委員長・副委員長の選出や、教育委員会が考える適正規模化方針についての説明と質疑がありました。それに続き、今回の第 2 回検討委員会では、深谷台小学校と俣野小学校の小規模化の状況について本格的な議論が行われました。また、両校の PTA が取りまとめた保護者意見の集計結果が、資料として配付されました。

### 今回の検討委員会の内容をお伝えします。

- 深谷台小学校と俣野小学校の小規模化の状況を示した詳細な推計値等をもとに、2 時間半以上に及び熱心な議論が行われ、意見や質問が相次ぎました。
- 今回の検討委員会で委員から出された意見・質問に対して、次回、事務局から回答することになりました。



## 2 深谷台小学校・俣野小学校の小規模化の状況

◇前回の検討委員会で出された質問について、事務局から回答しました。

### (1) 両校の児童数・学級数の詳細推計【速報値】

深谷台小学校 詳細推計	H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30	
	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級
小 1	49	2	47	2	43	2	42	2	40	2	26	1	21	1
小 2	54	2	49	2	47	2	43	2	42	2	40	2	26	1
小 3	63	2	54	2	49	2	47	2	43	2	42	2	40	1
小 4	47	2	63	2	54	2	49	2	47	2	43	2	42	2
小 5	41	2	47	2	63	2	54	2	49	2	47	2	43	2
小 6	47	2	41	2	47	2	63	2	54	2	49	2	47	2
合計	301	12	301	12	303	12	298	12	275	12	247	11	219	9

俣野小学校 詳細推計	H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30	
	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級
小 1	20	1	24	1	17	1	11	1	20	1	16	1	14	1
小 2	17	1	20	1	24	1	17	1	11	1	20	1	16	1
小 3	21	1	17	1	20	1	24	1	17	1	11	1	20	1
小 4	23	1	21	1	17	1	20	1	24	1	17	1	11	1
小 5	33	1	23	1	21	1	17	1	20	1	24	1	17	1
小 6	24	1	33	1	23	1	21	1	17	1	20	1	24	1
合計	138	6	138	6	122	6	110	6	109	6	108	6	102	6

※学級数は、1, 2 年生は 35 人学級、3～6 年生は 40 人学級として計算しています。

※H25 の 1 年生の児童数は、平成 24 年 12 月現在の入学予定者数です。

※網掛け部分については、指定地区外就学を見込まない児童数・学級数の推計数値です。

両校の児童数・学級数の推計を詳細に見ていくと、深谷台小学校は、平成 28 年度までは 40 人前後の新 1 年生が入学する見込みですが、平成 29 年度から急に減少し、20 人台になると見込まれています。一方、俣野小学校は、今後、20 人以下となる学級が増える可能性があります。

### (2) 大正地区の住宅開発

近年、大正地区では数戸～10 数戸規模の戸建住宅の建設が散見されていますが、戸建住宅の建設のみでは、大幅な児童増加は見込めません。教育委員会では、仮に、両校の通学区域内で新たに 500

戸程度の大規模マンションが建設されたとしても、両校を同時に適正規模化することは難しいと考えています。

### (3) これまでの推計と実際の児童数・学級数

平成 24 年度の深谷台小学校の児童数・学級数 (301 人、12 学級) は、過去に教育委員会が作成した推計値 (211 人、7 学級) を上回っており、俣野小学校の児童数・学級数 (138 人、6 学級) も、推計値 (123 人、6 学級) を上回っています。深谷台小学校の推計値が実数値と大きく異なった主な理由は、深谷台小学校への指定地区外就学によるものです。

指定地区外就学許可制度は、あくまでも個別の事情に応じて就学を許可する制度であり、その見込み数値を推計値に取り込むことは実際には難しいと考えています。

## 3 検討委員会での主な質問・発言 (★委員 →事務局)

◇今回の検討委員会では、大変熱心な議論がありましたので、議事のほぼ全容をお伝えします。

- ★前回の検討委員会ニュースに、通学区域と学校規模の適正化方策について引き続き議論していくと書いてあったが、それだけに絞って議論すると言った覚えはない。
- ★検討委員には、深谷台小・俣野小学区以外の地域住民代表が入っているので、周辺の学校も含めて議論するということが良いのか。
- ★大正地区は高齢化が進んでいるが、今後、入れ替わりで若い世帯が転入してくるのではないかな。
- ★検討委員は検討結果に責任を持たなくてはならないので、まずは、今、本当に学校規模について検討する必要があるのかというところから議論したい。  
→深谷台小・俣野小は児童数が減少しているので、両校の今後の方向性についてこの検討委員会で議論してほしいと考えています。ただし、そのためには、中学校も含めた周辺校のことも考える必要があると考えています。
- ★他の地区の検討委員会では2年で統合しているが、同じスパンで結論は出せない。大正地区は空いている土地も多く大規模な住宅の開発があるかもしれない。深谷通信隊の話もある。現時点では不確定な要素が多く、賛成とも反対とも責任を持って言えない。
- ★第1回検討委員会では教育委員会として最善と思われる案が提示された。それが正しいのかどうか、この委員会で検討する必要がある。その結果、「適正規模化の方策を決める時期は、今ではない」という結論が出て良いと思う。
- ★「深谷台小学校・俣野小学校」とカッコでくくられていることがおかしい。教育委員会がこの2校に絞り込んでいるように感じる。大正地区全体で、学校や子どもたちのことを考えるべきだ。
- ★私は、深谷台小学校と俣野小学校の子どもたちのための委員会だと考えていた。他の地域の委員の役割は、客観的な立場から意見を言っていただくことだと考えている。
- ★私としては、判断がつかないので結論を出すのはまだ早い、とするのが良いと思う。
- ★前回会議で出した質問には、今日答えてもらえるのか。  
→今回用意した資料の中でお答えできるので、説明させてほしい。
- ★町内の会合では、「児童数が少ないから統合もやむを得ない」という意見は全くなかった。教育委員会は、今の良い状態が続くかわからないと言うが、統合しても教育環境が良くなるとは限らないと思う。通学安全について、警察署に出す要望書は重いと言うが、警察の人が1日中見てくれるわけではないので、通学安全は保障できないだろう。統合した場合、子どものケアには、先生やカウンセラーが対応すると言うが、不登校になるような児童を一人でも出してはならないと思う。小規模校では教員数が少なく、相談相手がないと言うが、校長や副校長、同期や先輩の教員もいるだろう。部活を指導できる教員がいなければ地域に協力してもらえばいい。そうやって現状のまま良くなる方法を考えればいい。教育委員会は、仕事としてやっているが、その後は地域の我々が子どもを見守ることになる。現在、俣野小学校の児童は、学校に行くのが楽しくてし

ようがない様子なので、現状維持で良いと思う。

★検討委員は一人ひとり責任を持って参加している。「他の地区ではこうだったから、大正地区も同様です。」という説明はやめてほしい。

★子どもたちのことを一番よくわかるのは、PTAの方たちだと思う。泉区ではPTAの意向はどうだったのか。

→泉区の飯田北小学校・いちちょう小学校は、現在、両校とも全学年1学級です。「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」に沿って検討委員会で検討を進めました。まず、周辺校との学区調整による学校規模の適正化を検討しましたが、泉区の場合は難しいことがわかりました。反対意見もありましたが、最終的には「子どもたちの教育環境を向上させるには小学校を統合して適正規模化を図る必要がある」という結論が出されました。

★泉区では、第2回の検討委員会で統合することを決めたと書いてあるが、統合することはどこで決めたのか。検討委員会とは、この委員会と同様のものか。

→戸塚区と同様の検討委員会です。ただし、検討委員会の前に、保護者説明会など様々な場で説明させていただきました。

★大正地区の通学区域の直近の区割りはいつ行ったのか。

→一番最後の学校ができた時に、学区を見直しています。それ以外にも、地域の要望等により随時見直しを行っています。

★地域の要望と言うが、昨年度、教育委員会が学区変更の承諾をもらいに来た件では、そもそも地域から学区調整の要望はしていない。

★親として子どものことを考えると、通学がより安全になる学区調整があってもおかしくない。

★そもそも今検討するべきではないのではないか、という意見は、一理あると思う。教育委員会の推計が信用できないからだ。

→推計の信ぴょう性については、資料をもとに説明させていただければと思います。(資料により、児童数の実数値と推計値について説明しました。)

★戸塚駅周辺で、工場跡地に大規模な開発が予定されている。周辺校で教室が不足するのではないのか。そうすると、大正地区まで及ぶような学区調整が必要になり、児童が増加するのではないのか。

→そのような玉突きでの学区調整は難しいと考えています。大規模な開発等による児童の増加には、学校の増築や仮設校舎の設置で対応し、その補完的な役割として学区調整を行います。

★東京の臨海部で1500世帯の大規模な開発があり、学校の教室数が足りなくなった例を知っている。同じことが戸塚でも起きるのではないのか。教育委員会は、その可能性が一番高い時期にこの話を持って来ているように感じる。

→そのような大規模な開発は、横浜でも減多になく、今後、予定される場所は、鶴見区、神奈川区、中区を中心とする、北部や臨海部です。戸塚区の場合も、工場の撤退等が今後考えられますので、教育委員会でも、関係の区局から情報を収集し、適切に対応できるよう、準備しています。できるだけ5年後、10年後を予測して、子どもたちの教育環境が悪くならないように、何らかの対応策を講じていくことが、必要だと思っています。

★早めに対応する必要があるということだが、それが本当に正しいのか検討する必要がある。

★俣野小の来年度の新入生の推計と実数が異なるが、どういうことか。

★俣野小を統合させるために少なく見込んでいるのではないのか。

→推計は住民登録されている0～5歳の子ども数をもとに、過去3年間の転入転出率、入学率などを加味して数値を出しています。

★この推計を鵜呑みにして話を進めて良いのだろうか。

→過去の推計と実際を比較すると、俣野小はそれほど大きな誤差は出ていません。深谷台小は、指

定地区外就学が多いことから、その分により誤差が大きくなっています。

- ★深谷台小学校の指定地区外就学が多いのは、教育委員会の学区の指定の仕方に問題があるからだ。
- ★こうして理屈を付けられると、統合に向かっている感じがしてならない。子どもたちのことを考えるなら、専門家である教育委員会の案に従ったほうが良いかもしれないが、地域とすれば町を思って反対するのは当然だ。教育的な事情で統合するのであれば、地域に話を持ちかけないでほしい。不確定な要素が多いのに、何で我々が議論した内容を教育長に上げなくてはならないのか。議論するのは早いという意見を返したい気持ちだ。
- ★今回、PTAの意見をまとめた資料を出しているが、PTAはしょうがなく意見を出した。深谷台小ではほとんどが統合に反対だった。事前に教育委員会と話をし、今回話がまとまらなければ、しばらくは大正地区で学校統合をすることはできない、と言われた。教育委員会は統合がしたいのだと思った。だから、いくら資料を出されて、児童数が減少すると言われても、そんなのわからないと思ってしまう。
- ★やはり数字やアンケート結果をどう解釈するかは難しい。
- ★教育委員会で統合は決まっていますが、検討委員会はパフォーマンスなのではないかと感じる。本当に小規模校のデメリットがあるのかは、先生に聞くしかないと思う。
- ★学級数や児童数で子どもたちの教育環境を議論することが間違っているのではないかと。教育委員会としての考え方があることは当然で、その考えについて地域や保護者が検討することがこの委員会の趣旨であるはず。数字だけで統合を考えることは間違っていないのか。教育委員会は、学校と地域が一緒になって子どもを育てるというが、今回の資料には地域の視点がない。そもそもこれまでどのように地域と関わってきたのか。放っておけば大正地区の人口は減るかもしれないが、区政、地域振興という立場から、行政はどのように地域を活性化させる案を持っているのか。それを示してほしい。
- ★他県では、複数学年でクラスを編成する「複式学級」の学校もあるが、横浜市でもそうなることはあるのか。  
→横浜市では、複式学級になるほど小規模化すると見込まれている学校はありません。そこまで小規模化してしまう前に、何らかの対策を講じるべきだと考えています。
- ★横浜市は財政規模を小さくしようとしているが、人件費や設備費など学校の予算を減らすための統合ではないのか。  
→学校統合による財政効果があることは事実ですが、決して財政的な問題ではなく、小規模校を適正規模化することで教育環境を向上させることを考えています。
- ★深谷台小の推計と実数が大きく異なることは問題ではないのか。他にも同様のケースがあるのではないかと。  
→仮に、深谷台小学校が指定地区外就学を許可しなかった場合、学級数が少なくなります。ただし、指定地区外就学は現行の通学区域制度を補うものであり、必要な制度であると考えています。
- ★深谷台小の児童数が増えた分、どこかの小学校の児童数が減っているのではないかと。  
→指定地区外で就学している児童の指定校がどこかは調べていませんが、近隣の小学校であることが考えられます。
- ★PTAに「今でなければできない」と言ったのはおかしい。そのような条件が提示されるのであれば、議論するだけ無駄だ。教育委員会が統合したければ、統合すればいいという答えしかできない。
- ★教育委員会は指定地区外就学が多いため誤差が出たと言うが、それだけ誤差が出るのであれば、委員として判断できない。
- ★仮に深谷台小と俣野小が統合した場合、通学に無理があるのではないかと。

→統合すれば学区は広くなるので、通学安全・通学距離・通学時間・防犯といった観点から学区についても検討してほしいと考えています。

★統合するかどうかは、教育委員会で決定すれば良い。統合して課題が出たら、地域が面倒を見られないが、不確定な要素が多い中で統合することに加担はできない。

★一つの情報として話をする。学校は、子ども一人ひとりを大切にして、温かい教育を心がけているが、単級に不安を感じている保護者がいることも事実だ。先日の体育大会で、代表選手を選出したが、今後、児童がさらに減少すると、代表選手を選出できるか心配だ。また、小規模校は修学旅行や卒業アルバムの1家庭あたりの負担が大きくなる。

★人数が少ないからといって学力が低下することはない。それを含めて、検討委員会で結論を出すことは難しいと思う。委員は責任を持って出ているが、事務局があるので、言いたいことが言えないのではないかと。地域として学校などの施設が無くなることは非常に困る。また、児童数が増えても校庭や体育館の施設が大きくなるわけではないので、子どもの健康管理上良くない。

★保護者から今後について聞かれる機会が多い。動揺している保護者もいる。存続させるべきかどうかは決める必要があるのでは。

→仮に統合するとしても来年度からの統合は実務上、不可能です。

★過去の統合の例では、2～3回目の検討委員会で結論を出しているが、大事な問題なので、本来なら1～2年かけて、あらゆる角度から検討しなければならないと思う。

★教育委員会は、すでに結論を持っていて、地域で何回話し合いをしたという結果が欲しいのだろう。我々は我々で子どもたちを守る。今のままが自然な形だと思っている。しかし、校長の話を聞いて、どちらが正しいのか迷っている。

★民間の感覚が役所にはない。人数が少なく修学旅行にお金がかかるなら、少ない学校同士で一緒に行けばいい。お金がないから統合すると言うのならわかるが、子どもの教育の話を出されると、皆の考え方が違うのだから面倒くさくなる。

★今回、結論を出すことは時間がないから無理だ。校長先生が新入生の親の気持ちを話したが、それがどこにあるのかを考えることが、検討委員会の務めではないか。

★侯野小でも保護者アンケートをとった。様々な意見がある一方、今の時点では、意見は特にないという回答も多かった。保護者説明会後のアンケートなので、その時点では、検討委員会で何も決まっていなかったため、意見がもてないと考えた保護者もいたのではないかと。今後、具体的な話が進むにつれて意見等が出てくるかもしれない。今後にも必要に応じ、保護者の意見を伺いながら検討委員会に臨みたい。

★何も決まっていないうが、教育委員会は、通学区域と学校規模の適正化を進めたい、そのために統合したい、と言っているのではないかと。

★深谷台小では、あくまでも統合ありきではないという説明をした。

★教育委員会から、先延ばしにしたら統合できないと言われた話を聞きたい。

★数年後に統合してくださいと言っても、その時はできないと言われた。このような会議には出席したくない。私は統合に反対だ。

★予算のためではなく、子どもたちのために、という話ではなかったのか。数年後に児童数が減少して立ち行かなくなったときに相談しても、できないというのはおかしいと思う。本当に子どもたちのことを思うのであれば、また統合が必要な時期に検討するべき。

→今後、小規模校はますます増えていきます。教育委員会の体制上、そのすべてに対応することは難しく、1年で2地区ほどしか対応できません。6年後には、小規模校が60校ほどになると見込まれている中で、一度検討して結論が出なかった地区で、もう一度検討をすることは、他の学校の対応もあるため難しいと思う、とお伝えしました。

★対象の学校が60校にもなって、1年に2地区しかできないのなら、何か違う組織を作らなければ対応できない。

★色んな人たちが色んな意見を出したが、まだまだ分からないことが多く、しかし、概ね反対だというのが結論ではないか。この会議には出たくないという委員もいるというのが結論ではないか。

★おおかたの意見としては統合に積極的な賛成という意見はなかった。逆に現状のままにすべきという意見、議論はやめた方がよいという意見が出た。それらの意見に対して、次回の検討委員会を開催するとすれば、教育委員会に見解を示してもらえればと思う。

→今回、説明できなかった資料は、次回説明するというところでよろしいでしょうか。

★今回の資料は読めばわかる。次回に、今回出た意見について回答してもらえればと思う。

#### 4【第1回検討委員会以降に事務局に寄せられた意見】 ☆意見 →事務局の回答

◇地域や保護者の方から寄せられた意見と、それに対する事務局の回答をご紹介します。

☆地域の方々、児童、保護者は、学校が小規模であることに不満を持たない人は多いのではないか。

→現在の深谷台小学校、俣野小学校が、先生方の努力と、保護者、地域の皆様のご協力により、児童にとって良い環境となっていることは、私どもも承知しております。だからこそ、今後も児童数の減少が見込まれる中で、将来を見据えてより良い教育環境について検討することが必要だと考えております。

☆検討委員は地域・保護者・学校の代表者で構成されるが、保護者の割合が少ないのではないか。

→検討委員会の委員は、各団体の代表者であることから、PTAの代表として、両校のPTA会長と副会長にご参加いただいております。PTA会長、副会長を通じて保護者の皆様のご意見を検討委員会にお届けください。また、今回のように事務局にお寄せいただいたご意見も、検討委員会で内容を伝えてまいります。

☆もっと大きな視野で地域を見てほしい。統合ではなく、周辺校との学区調整で適正規模化を検討すべきだ。

→検討委員会では、適正規模化の方法について、まずは周辺校との通学区域調整により適正規模化が図れないかを検討します。

☆統合しないでほしい。学校がなくなると、その地域には若い世代の転入がなくなり、地域から子どもがいなくなるのではないか。検討を急ぐべきではない。

→きちんと議論を尽くすことが大切と考えているので、特に期限を設けるようなことはしません。ただし、どうなるのかははっきりしないまま何年も長引くのは良くないと考えています。

☆統合した場合、通学路が長くなり、安全が確保できないのではないか。

→仮に統合した場合は通学区域が広がりますから、事務局としても通学路の安全確保や防犯対策は重要だと考えております。これまでの事例では、想定される通学路を検討委員に実際に歩いて確認していただき、カーブミラーの設置など、通学路を安全にするための改善策を要望書にまとめ、警察署と土木事務所に提出することで改善を図っていただきました。

「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と学校規模の適正化検討委員会の経過、横浜市の基本方針等はインターネットでも見ることができます。

・「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と学校規模の適正化検討委員会：

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/shoukibo/>

・基本方針等：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoiku-info/gakku-houshin.html>

「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と学校規模の適正化検討委員会では、皆様からのご意見を受け付けております。FAXかEメールで、事務局（学校計画課）までご連絡ください。

「深谷台小学校・俣野小学校」通学区域と学校規模の適正化検討委員会事務局（学校計画課）

電話 045-671-3253 FAX 045-651-1417 Eメール [ky-totsuka@city.yokohama.jp](mailto:ky-totsuka@city.yokohama.jp)